HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	過去と今、人とモノ、文化財活用の未来
Author(s)	平澤, 悠
Description	セッション1: パブリック考古学の可能性
Relation	先住民文化遺産とツーリズム : 北海道の可能性(International Symposium: Indigenous Heritage and Tourism - Potential in Hokkaido). 2012年10月13日-14日. 北海道大学学術交流会館小講堂 , 札幌市.
Issue Date	2012-10-14
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/51245
Type	conference presentation
File Information	session1report2.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学
サステナビリティ・ウィーク
Hokkaido University Sustainability Weeks

2012 年 10 月 14 日

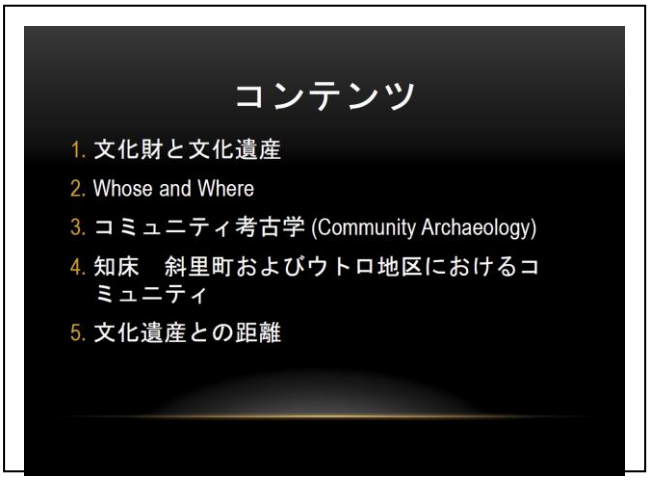
International symposium 2012　Indigenous Cultural Heritage and Tourism

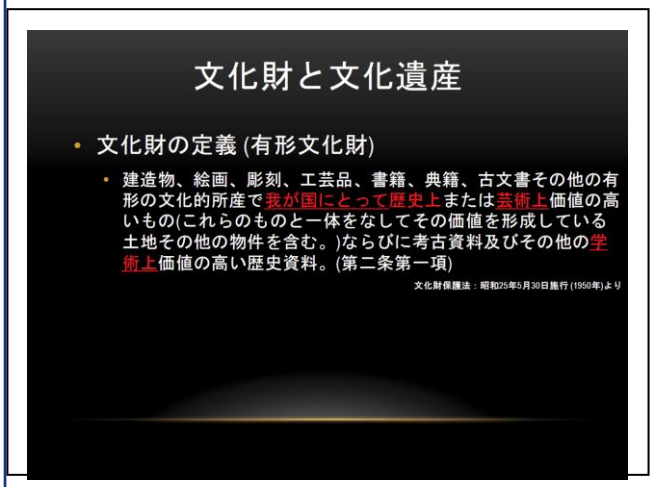
国際シンポジウム

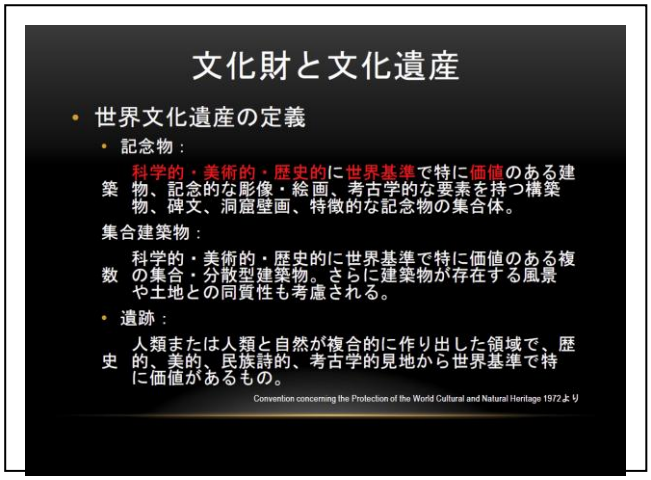
先住民文化遺産とツーリズム
–北海道の可能性–

『過去と今、人とモノ、文化財活用の未来』

平澤　悠
（北海道大学大学院文学研究科修士課程）







文化財と文化遺産

- 先住民族の文化遺産の定義
- 先住民族の文化遺産とは、先住民族またはその個人が維持し、発展させた文化遺産の特徴的な要素で構成される、有形または無形の創造物、表象および製作物であって、当該民族の伝統的な文芸、芸術または科学的な期待を反映したものをいう

・史跡、聖地
・伝統的な土地・水域、種子、医薬品ならびに植物
・自然ならびに万物に関する伝統的な知識および慣習
・物語、詩、なぞなぞなどの口承伝統
・表現、言葉、記号、名称、象徴およびその他の表示という言語の側面
・舞踊、演劇のような実演もしくは作品、芸術的形式または儀式。
・芸術、とりわけ素描、デザイン、絵画、カービング、彫刻、陶器、モザイク、木工品、金属細工、宝飾、楽器、バスケット編み、手芸品、刺繍、織物、敷物、衣装および建築様式
・社会的慣習、儀式および祭礼行事

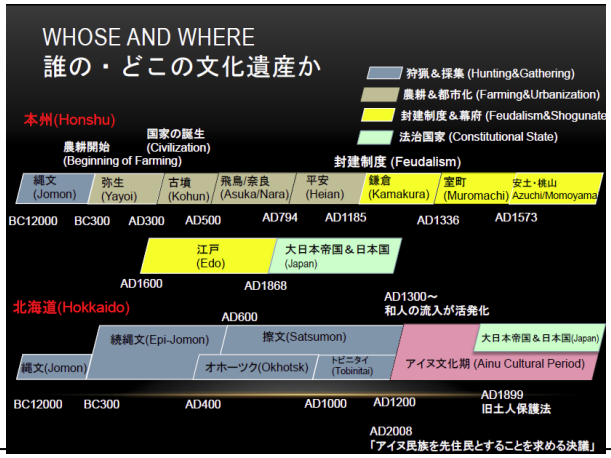
Review of the draft principles and guidelines on the heritage of indigenous peoples, Expanded working paper submitted by Yozo Yokota and the Saami Council on the substantive proposals on the draft principles and guidelines on the heritage of indigenous peoples, E/ CN. 4/ Sub. 2/ AC. 2005. を参照

文化財と文化遺産

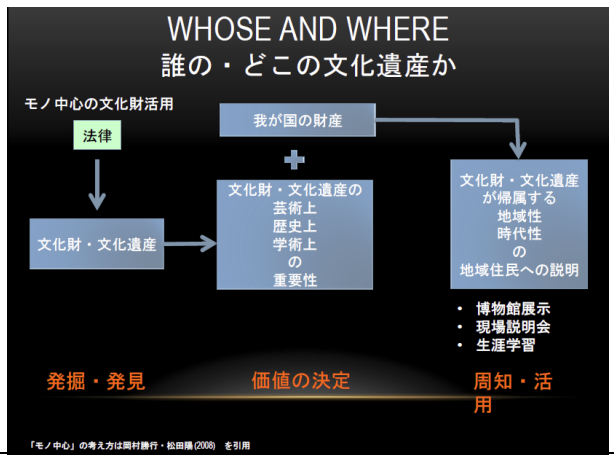
定義立案者	保護対象	認定条件	誰の	どこの
UNESCO	世界の遺産	科学的・美術的・歴史的な価値	全人類共通	世界
日本国	日本国内の遺産・文化財	学術上・美術上・歴史上価値が高い	日本国民	日本全国
横田&サーミ委員会	先住民の遺産	先住民の伝統的な知識・美術・儀式など	特定の先住民集団	先住民の帰属する土地

WHOSE AND WHERE
誰の・どこの文化遺産か

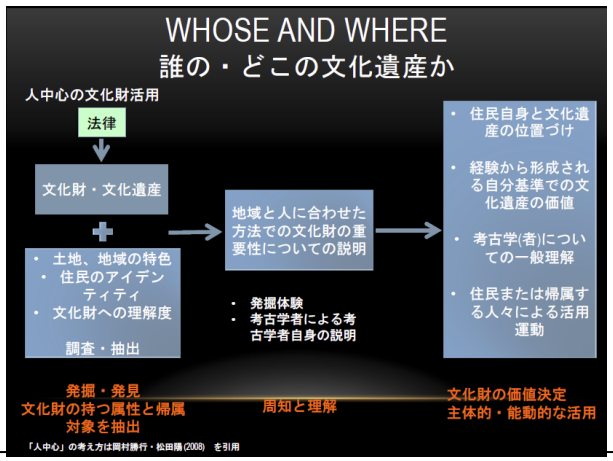
WHOSE AND WHERE
誰の・どこの文化遺産か



WHOSE AND WHERE
誰の・どこの文化遺産か



WHOSE AND WHERE
誰の・どこの文化遺産か

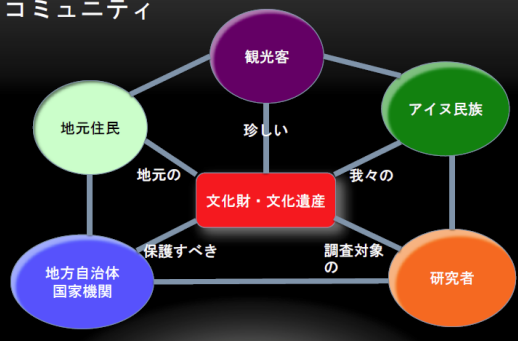


コミュニティ考古学
COMMUNITY ARCHAEOLOGY

- コミュニティ＝地域、共同体
- 英国レスター州での市民参加型調査
- コミュニティ≠地域社会全体
- ある共通の項目によってグループ化される個人の集合体

弁財海近くの新たに発見されたチャシでのカムイノミ
結城幸司氏(右)と早坂雅資氏(左)

知床　斜里町およびウトロ地区における コミュニティ



先住民文化遺産と考古学における可能性

多声性
Multivocality
(Hodder 2003)

知床の文化遺産の多様性を知ってもらう
＝各地元コミュニティによる文化資源化と観光客による消費

チャシコツ岬下B遺跡での発掘体験

文化遺産との距離

- 『埋蔵文化財の保存と活用　(報告)』(文化庁 2007)
  - 地域のニーズの集約
  - 発掘現場の積極的公開と体験実施
  - 外部機関との連携
  - 様々な活用事業の実施

『Jorvik DIG』(掘る): York Archaeological Trust
写真：http://www.barleyhall.org.uk/groups.asp

今後の文化財・文化遺産活用の課題

- 研究者・調査士側からの様々なコミュニティとの連携提案
- アイヌ民族コミュニティ側からの積極的な考古学への参加
- 考古学従事者自身の一般社会との関わり方に多様性を
- 研究者の正確性の追求と一般社会の消費メカニズムの両立

※特に出典記載のない写真は報告者撮影。